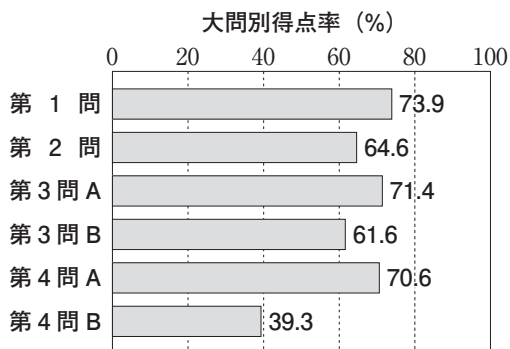
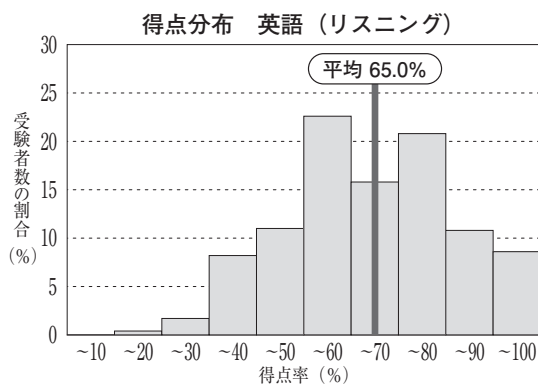


英語 (リスニング)

自分の弱点を把握し、得点力アップのための対策を立てよう。

I. 全体講評

今回初めてセンター試験本番レベル模試を受けた人たちは、まず試験の特徴をよく知ってほしい。そして、筆記問題と同様、リスニング問題の出題形式やレベルに早く慣れ、徐々に得点力を向上させてもらいたい。今回の受験学年の平均得点は32.5点で、得点分布は下のグラフのようになっている。全体の得点率に換算すると約65%で、良好な出来であった。大問別に見ると、最高が第1問の73.9%、最低が第4問Bの39.3%であった。第4問Bのみが大きく水をあげられた格好だが、ここは長い会話文を素材として、内容も複雑なため、慣れない受験生にはまだ対処しにくい面があるだろう。正解を得られなかった問題については、解説を参照しながら、つまりいた理由をはっきりさせておくようにしよう。



II. 大問別分析

第1問 対話の聞き取り(数値・語句・イラスト選択)

大きな課題となりうる数値・視覚情報!

第1問の得点率は73.9%で、非常によくできていた。小問別正答率を見ても、50%台後半から90%までとハイレベルで安定していた。第1問は短い会話文を素材としていて、リスニングの基礎力を測るのに適しているが、その中にイラストなどの視覚情報や数値に関する問題が含まれるのが特徴である。一般的に言えば、特に紛らわしいのが数値問題である。今回の場合は、全体としては無難に切り抜けていたが、このタイプの問題で注意すべきは解答のために簡単な計算を求められることである。簡単な計算とはいえ、耳で聞いて瞬時に判断するにはかなりの訓練が必要だということがわかるだろう。視覚問題と並び注意を要する設問なので、過去のセンター試験でどのような出題例があったかを十分把握しておこう。

第2問 対話の聞き取り(応答文選択)

対話の流れをしっかりとつかもう!

適切な応答文を選んで、対話文を完成させる問題。今回の第2問の得点率は64.6%だった。小問別の正答率では90%に達したものがあ一方、30%台、40%台に留まった問題も1つずつと、ややばらつきが見られた。正答率が最も低かったのは問11である。対話中の2人の人物は、雨が降るといふ天気予報が出たため、予定されていたピクニックを中止しようとしている。代案として、1人が「私たちは博物館に行くべきかもしれない」と言ったのに対し、もう1人の返答として①「(2人で)映画を見るべきだと思う」があてはまる。正答率は37.6%で、それに近い数の人が④「うん、君はそこに行くべきだ」を選んでいて、④は主語がyouではなくweであれば正解となるところだが、ちょっとした違いで、かみ合わない選択肢となっている。

第3問A 対話の聞き取り(質問に対する答えの選択) 文脈全体から発言の意図をつかもう。

短い対話文に基づくオーソドックスな内容一致問題。今回の第3問Aの得点率は71.4%とよくできていた。小問ごとの正答率を見ても、60%台半ばから80%近くで安定していた。ただし、今回好成绩だったからと言って、決して軽視できる箇所ではない。過去の本模試の結果を見ると、時には単純に本文と選択肢に共通する、あるいは似通った語句につられて、誤答を選ぶケースもある。短い対話に基づく基本的な設問形式ではあるが、ここでは文全体の流れから話者の心理や意図をつかむように注意したい。

第3問B 長めの対話の聞き取り 最後まで集中して聞き取ろう！

第3問Bはかなり長い対話文を聞いて、内容一致問題に答えるパートである。今回の得点率は61.6%で、標準的な成績だった。正答率の内訳を見ると、80%台と40%台の小問が1つずつあり、やや安定を欠いていた。正答率が低かったのは問19である。解説にもあるように、最後の発言が決め手になっている。長い文の細部すべてを聞き逃さないということは至難の業であるが、話の結論にあたる部分は集中して聞き取るようにしてほしい。また、ここでは対話の長さも一気に長くなるので、聞きながら理解するスピードが求められる。間違えた箇所については、どこに原因があったかを各自で突き詰めてほしい。そして、今後はこの形式に十分習熟し、対応力を高めてほしい。

第4問A 長めの文章の聞き取り 本文と選択肢の言い換えに注意しよう。

第4問Aはひとまとまりの英文を聞いて、内容一致問題に答える箇所である。今回の第4問Aの得点率は70.6%で、かなりの好成绩であった。小問別の正答率を見ても、すべて60%台から70%台で非常に安定していた。第4問ともなると、聞き取る分量もさることながら、内容面でも複雑になる。その内容をいかに総合的かつ的確に把握できるかがポイントである。また、内容一致問題の性格上、本文と選択肢では同じ表現を避けるのがふつうである。こうしたことから、センター試験のリスニング問題では最も難しい箇所と言える。今回満足の

いく成績を取れなかった人は、今後トレーニングを積みながら、対応力を高めていてもらいたい。

第4問B 長めの会話の聞き取り 今後のトレーニングの成果を期待したい

リスニング最後の問題である第4問Bは長い会話を素材とした内容一致問題である。その長さゆえにハードルの高い大問であるが、今回の得点率も39.3%ということで、多くの人が苦戦したことがわかる。小問別の正答率も、10%台前半が1つ、残りの2問は30%台と60%台で安定性を欠いていた。今回の場合、話題そのものは日常的なものだったが、最後になって長い英文を聞き取らなければならない上に、選択肢の内容がやや複雑だったことも重なった結果というべきであろう。今後のトレーニングを積む中で、問題に慣れると共に、ここ一番という時に求められる集中力を養ってほしい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆英語の音に耳を慣らそう！

リスニング力向上の基礎はまず耳慣らしである。個別に取り出された単語の発音とは異なり、文単位の発音では、音の連続によって新たな音が生じたり、子音などが脱落する現象が多く見られる。これが、英語の聞き取りを難しくしている最大の理由の1つである。したがって、こうした英語の音の特徴に慣れるためにはできるだけ多くの英文を耳からインプットする必要がある。

また、読み上げ文はナチュラルスピードで読まれるので、理解のスピードが追いつかないというケースもある。これを克服するには、耳で聞いた英語を素早く理解するための訓練が必要である。そのために、音読を習慣としたい。音読をするスピードで英語を理解する訓練をすれば、「聞いて理解するスピード」も必然的に高まる。易しいもの、あるいは以前に読んだものでよいから、一定の速度で、読み返さずに前から一気に読み、意味をつかむようにするのである。速読力と聴力は相乗効果を生むであろう。